

⑫ 公開特許公報(A)

平3-53785

⑤ Int. Cl.⁵H 04 N 7/14
5/225
5/64
5/66

識別記号

Z
Z
Z
1 0 2 Z

庁内整理番号

8725-5C
8942-5C
7605-5C
7605-5C

⑬ 公開 平成3年(1991)3月7日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 テレビ電話装置

⑮ 特 願 平1-190031

⑯ 出 願 平1(1989)7月21日

⑰ 発 明 者 青 木 豊 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネラル内

⑱ 出 願 人 株式会社富士通ゼネラル 神奈川県川崎市高津区末長1116番地

⑲ 代 理 人 弁理士 長尾 常明

明 細 書

1. 発明の名称

テレビ電話装置

2. 特許請求の範囲

(1). 電話回線に接続され伝送信号を電波で送受する送受信部を有する本体部と、該送受信部と電波で結合された別の送受信部、画像撮像用のカメラ、音声再生用のスピーカ、画像表示部、音声取り込み用のマイク、オフフック、ダイアリング、画像伝送切換等の操作を行うための操作部、送信し又は受信した画像データ格納用のメモリを具備する可搬部とから成ることを特徴とするテレビ電話装置。

3. 発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明はコードレスのテレビ電話装置に関する。

〔従来の技術〕

従来から静止画伝送の可能なテレビ電話装置が提案されている。これは、通常のアナログ電話回線を使用して、画像信号を音声信号帯域の信号に

変換して伝送するものである。

〔発明が解決しようとする課題〕

ところが、このテレビ電話装置は、画像表示部が小型でまた有線方式であることから、電話機の設定場所から離れた場所では使用出来なかった。

本発明は、無線方式を採用して、使用範囲を大幅に拡大できるようにしたテレビ電話装置を提供することである。

〔課題を解決するための手段〕

このために本発明のテレビ電話装置は、電話回線に接続され伝送信号を電波で送受する送受信部を有する本体部と、該送受信部と電波で結合された別の送受信部、画像撮像用のカメラ、音声再生用のスピーカ、画像表示部、音声取り込み用のマイク、オフフック、ダイアリング、画像伝送切換等の操作を行うための操作部、送信し又は受信した画像データ格納用のメモリを具備する可搬部とから構成した。

〔実施例〕

以下、本発明の実施例について説明する。第1

図はその概略を示す図である。1は通常の電話機、2はテレビ電話装置の本体、3はテレビ電話装置の可搬部である。第2図はこの本体2と可搬部3の内部ブロックを示す図である。

まず、本体2は電話機1側に設置され、回線及び電話機1に接続されるネットワークコントロールユニット201、受信データを復調しおよび送信データを変調するモデム202、送受する画像データを一時格納するメモリ(RAM)203、可搬部3との間で電波を送受する送受信部204、全体を制御するマイクロコンピュータからなる制御部205、および操作部206を具備する。

また可搬部3は、折り畳み式のラップトップ型であり、上記送受信部204との間で電波を送受信する送受信部301、送受信する画像データを一時格納するメモリ302、音声信号と画像データの分離・合成を行う分離合成部303、カメラ304、スピーカ305、液晶ディスプレイ306、マイク307、エコーキャンセラ308、全体を制御するマイクロコンピュータからなる制御

部309、オフフック、ダイアリング、画像伝送切換等の操作を行うための操作部319、電池311等を具備する。

この実施例では、操作部206の操作によってネットワークコントロールユニット201を本体部2の側に切り換えておけば、相手側から呼出があると、その呼出信号がユニット201⇒制御部205⇒送受信部204⇒可搬部3の送受信部301⇒制御部309⇒分離合成部303⇒スピーカ305に至りそのスピーカ305が鳴動する。

そこで操作部310によりオフフック操作を行えば、上記と逆経路を経由する信号によりユニット201が受信動作を行ない、回線が接続される。またこれとは別に、可搬部3の操作部309においてダイアリング操作を行えば、その内容が上記と同様の経路を経由してユニット201から回線に送出され、相手側がオフフックすれば、回線が接続される。

このようにして回線が接続された後は、可搬部3のみにより、スピーカ305とマイク307を

使用して、相手側と通話を行うことができる。

そして、相手側が映像送出信号を送れば、これが制御部205で受信され、モデム202、メモリ203が動作して、受信された画像データがそのメモリ203に書き込まれる。そして、この書き込まれたデータが送受信部204、301によって可搬部3のメモリ302に転送され、その内容が分離合成部303から液晶ディスプレイ306に送られて再生される。映像データ伝送が完了すれば、制御部205、309の動作によって通常の音声通話となる。

可搬部3のカメラ304で撮像している画像は、操作部309の操作によりそのままりアルタイムで液晶ディスプレイ306に映しだすことができるが、その映像を送出する場合には、操作部309において映像送出操作を行う。これにより、カメラ304で現在撮像している内容が分離合成部303からメモリ302に書き込まれ、その内容が本体側2側のメモリ203に転送されて、このメモリ203に書き込まれた内容が回線の伝送速

度に応じて読み出されて、モデム202とユニット201を経由して回線に送出される。

(発明の効果)

以上のように本発明によれば、可搬部に表示部およびカメラを設けているので、コードレス化したテレビ電話装置を実現でき、その使用範囲を大幅に拡大できるという利点がある。

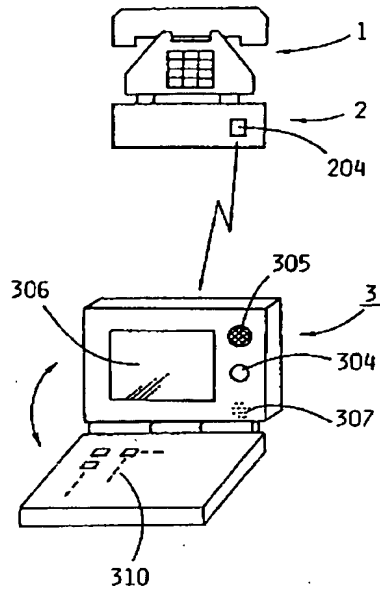
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例のテレビ電話装置の外観を示す図、第2図はそのブロック図である。

1…電話機、2…テレビ電話装置本体部、3…テレビ電話装置可搬部。

代理人 弁理士 長 尾 常 明

第 1 図



第 2 図

